

令和3年度 第1回 厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会

資料2 ロジックモデルの作成・点検について

2021年9月15日

I. ロジックモデルの作成・点検方法について

EBPM実践対象事業/重点フォローアップ事業/効果検証対象事業について

EBPM実践対象事業、重点フォローアップ事業、効果検証対象事業の概要は以下のとおり。

種類	選出	内容
EBPM実践対象事業	<ul style="list-style-type: none">■ 「厚生労働省における令和3年度の取組方針」の選定基準と除外基準によって選出された事業。■ 基準に該当する事業はすべて対象となる。	<ul style="list-style-type: none">■ ロジックモデルの作成と活用を行う。■ 政策立案・評価担当参事官室(以下「政評室」という。)と委託業者(注1)が協力してロジックモデルに対して点検を行う。■ 点検結果を受け、担当課室はロジックモデルをブラッシュアップする。
重点フォローアップ事業	<ul style="list-style-type: none">■ EBPM実践対象事業の中から選定する。	<ul style="list-style-type: none">■ 担当課室へのヒアリングを実施し、ロジックモデルの記載内容、エビデンスの記載内容、効果検証に関してEBPM事務局からコメントを送付する。■ 半期に1度、政評室が行う詳細なフォローアップを受ける。■ 平成30年度、令和元年度、令和2年度に選定された事業についてフォローアップを継続中。
効果検証対象事業	<ul style="list-style-type: none">■ 重点フォローアップ事業の中から選定する。	<ul style="list-style-type: none">■ 令和3年度にリサーチデザインを作成し、令和4年度に事業の実施、令和5年度に効果検証を行う。

(注1) 委託業者：令和元年度～令和2年度はみずほ情報総研(株)(現 みずほリサーチ&テクノロジーズ(株))

令和3年度は三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)

厚生労働省における令和3年度の実組方針(再掲)

厚生労働省における令和3年度の実組方針

- 令和4年度概算要求プロセスにおいて、EBPMになじまない事業等(除外基準(※2)に該当する事業)を除き、①新規事業、②モデル事業、③大幅な見直しを考えている既存事業のうち、一定の選定基準(※1)に該当するものについて、原則としてロジックモデルを作成し、活用する。なお、部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合は、**新規事業(新規事業がない場合は既存事業)のうち最も要求額が大きい事業**について、ロジックモデルを作成し、活用する。このうち一部を公表。
- **公開プロセス対象事業**においても、EBPMになじまない事業等(除外基準(※2)に該当する事業)を除き、ロジックモデルを作成し、活用する。
- 予算事業以外(規制等)等についても、行革事務局の実組方針に沿って対応する。

※1 一定の選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業
③	大幅見直し事業	対前年度予算額 50%以上 増加する事業であって、かつ、増加分の差額が 1億円以上 の事業
④	①に該当しない新規事業 又は ③に該当しない既存事業	※ 部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合 ①以外の新規事業(新規事業がない場合は③以外の既存事業)のうち、最も要求額が大きい事業(部局単位) なお、本欄は財務省主計局への概算要求提出時まで適用する。

注 年度途中で補正予算対応となった事業についても、令和4年度に事業を継続する場合は、引き続き本年度の実践対象事業とする。

※2 除外基準(ロジックモデルの作成・提出を不要とする。)

	事業
i	事業の内容が、現状分析・課題分析を目的とした事業
ii	司法判断により国が実施義務を負うことが明らかな事業
iii	現在の事業において採用されている手法に代わりうる有効な手法を検討することが困難な事業 (外交的判断で意思決定されており、原局レベルで代替案を検討することができない事業等を想定。個別協議の上、判断)
iv	効果検証実施年度(令和5年度)までに終了する事業(モデル事業を除く。)
v	政策目的から遡った政策手段の検討余地がない事業(義務的経費の支出、システム改修、施設整備などの事業で、既定方針の実施過程にあるもの)

注 上記 i ～ v 以外に、特殊事情によりEBPMの実践が困難な場合には、個別協議の上、判断する。

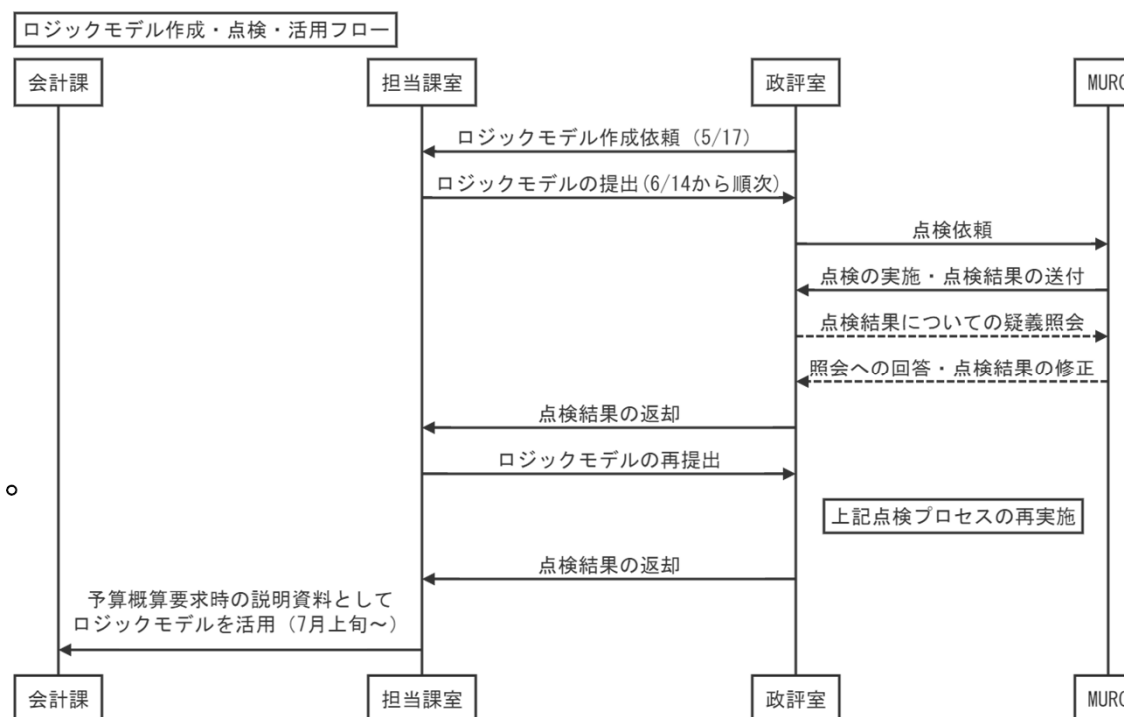
(出所) 本有識者検証会「厚生労働省におけるEBPMの実組状況について」(厚生労働省作成)(資料1)

EBPM実践対象事業のロジックモデルの作成・点検・活用フロー

「厚生労働省における令和3年度 of 取組方針」で示されている基準に合致する事業について、政評室が作成した「ロジックモデル記入要領」(参考3)及び「令和3年ロジックモデル記入上の注意」(参考4)に従い、提供された様式を埋める形で、各事業の担当課室がロジックモデルを作成している。

作成・点検・活用フロー

- 会計課への説明(7月上旬～)での活用を当面の目標としてロジックモデルを作成。
- 政評室とMURC(以下「事務局」という。)が、担当課室のロジックモデルに対して点検結果のフィードバックを実施。
- 作成依頼から会計課説明まで約1.5ヶ月、点検とブラッシュアップの期間は0.5ヶ月というスケジュールでの作業となっている。



今年度のロジックモデル様式①

別添1 ロジックモデル (3-1)					
事業名	レビュー番号		担当部局・課室		
現状分析	課題		事業概要 【 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 既存 <input type="checkbox"/> モデル <input type="checkbox"/> 大幅見直し】		
【インプット】	【アクティビティ】	【アウトプット】	【短期アウトカム】	【長期アウトカム】	【インパクト】
令和4年度 概算要求額 (単位: 百万 円)	<div></div> <div></div> <div></div>	<div></div> <div></div> <div></div>	<div></div> <div></div> <div></div>	<div></div> <div></div> <div></div>	<div></div> <div></div> <div></div>
				【長期アウトカムに関連する事業】	

(出所) 「令和3年ロジックモデル様式」(厚生労働省作成)

今年度のロジックモデル様式②

別添1 ロジックモデル（3－2）

ロジックの確認 ①

【論理展開の妥当性の確認】

インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開が妥当か、以下の確認項目に従ってチェックすること。

✓	確認項目	留意点
<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから遡って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。

ロジックの確認 ②

【課題解決の手段としての当該事業（アクティビティ）の妥当性】

効果検証方法

1 効果検証に当たっての項目整理

P：事業の対象	I：事業内容	C：比較対象	O：アウトカム

2 効果検証の分析手法等

--

EBPM取組体制	役職	氏名	内線
(課室長クラスの方も含めること)			
※別途案内するEBPM研修の対象者に該当			

(出所) 「令和3年ロジックモデル様式」(厚生労働省作成)

今年度のロジックモデル様式③

【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】				別添 1 ロジックモデル（3－3）
指標名	目標値（水準）の設定理由	目標達成時期の設定理由	設定した指標を算出する調査名等	
アウトプット①				
アウトプット②				
アウトプット③				
アウトプット④				
アウトプット⑤				
アウトプット⑥				
短期アウトカム①				
短期アウトカム②				
短期アウトカム③				
短期アウトカム④				
短期アウトカム⑤				
短期アウトカム⑥				
長期アウトカム①				
長期アウトカム②				
長期アウトカム③				

（出所）「令和3年ロジックモデル様式」（厚生労働省作成）

ロジックモデル様式②について昨年度からの変更点

昨年度からの変更点

- ロジックの確認①欄【論理展開の妥当性】について、担当課室の記入負担の軽減のため、自由記述を廃止し、チェックリストを設置した。
- 記載項目の明確化のため、効果検証方法欄にPICO(P:Population、I:Intervention、C:Comparison、O:Outcome)のフレームワークを導入した。
- EBPM担当を特定するため、EBPM取組体制の記入欄を設置した。

昨年度のロジックモデルの様式(2ページ目)

ロジックの確認 ①
<p>【論理展開の妥当性】</p> <p>① インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開を以下に留意し説明すること。</p> <p>✓ 論理展開に矛盾がないかを検討し、記入する。 ※ インプットから考えた因果関係と長期アウトカムから選って考えた因果関係が一致するかを確認する。</p> <p>※ 一致しない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係を基本として、アウトプットや短期アウトカムに修正すべき点がないかを確認する。</p> <p>✓ 短期アウトカム、長期アウトカムとして設定した指標が、ロジックに照らして妥当なものである理由を記入する。</p> <p>✓ 上記の指標が既存調査の結果から算出される場合は、調査名を記入し、新規調査や新たな制度などによる報告結果から算出される場合は、その種類（区分）（例：「新規調査」、「新制度による報告」等）を記入する。</p>
<p>ロジックの確認 ②</p> <p>【課題解決の手段としての当該事業の妥当性】</p> <p>② アクティビティの内容が妥当かを説明する。</p> <p>✓ エビデンスとして、他分野の既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果等を記入する。</p> <p>✓ 例えば、研修の開催の場合、その開催自体のみならず、対象や開催地の選定の妥当性を説明する。</p>
<p>効果検証方法</p> <p>・ アウトプット、短期・長期アウトカムで記載した目標年度に、目標値の達成状況など当該事業の効果を検証する旨を記入する。</p> <p>・ その際、以下についてあらかじめ明らかにしておくこと。</p> <p>✓ 事業実施前後を比較して、効果検証を行うことの実現可能性、その具体的な方法</p> <p>※ 外部要因の影響を受ける場合には、どのような外部要因が想定されるか（長期アウトカムに特に寄与すると考えられる主な関連事業の有無も含む）</p> <p>✓ モデル事業の場合は、事業実施地域と事業を実施しない地域の比較方法</p> <p>✓ 上記が不可能である場合の検証方法</p>

今年度のロジックモデルの様式(2ページ目)

別添 1 ロジックモデル (3-2)																							
<p>ロジックの確認 ①</p> <p>【論理展開の妥当性の確認】</p> <p>インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開が妥当か、以下の確認項目に従ってチェックすること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>✓</th> <th>確認項目</th> <th>留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。</td> <td>改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。</td> <td>改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>長期アウトカムから選って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。</td> <td>寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。</td> <td>他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。</td> </tr> </tbody> </table>				✓	確認項目	留意点	<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。	<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。	<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから選って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。	<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。					
✓	確認項目	留意点																					
<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。																					
<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。																					
<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから選って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから選って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。																					
<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。																					
<p>ロジックの確認 ②</p> <p>【課題解決の手段としての当該事業（アクティビティ）の妥当性】</p>		<p>効果検証方法</p> <p>1 効果検証に当たっての項目整理</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>P: 事業の対象</th> <th>I: 事業内容</th> <th>C: 比較対象</th> <th>O: アウトカム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>2 効果検証の分析手法等</p>		P: 事業の対象	I: 事業内容	C: 比較対象	O: アウトカム																
P: 事業の対象	I: 事業内容	C: 比較対象	O: アウトカム																				
<p>EBPM取組体制</p> <p>（課室毎クラスの方も含めること）</p> <p>※別添案内するEBPM研修の対象者に該当</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>役職</th> <th>氏名</th> <th>内線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		役職	氏名	内線																	
役職	氏名	内線																					

ロジックモデル点検の観点

以下の点に着目して「ロジックモデル点検結果コメントシート」(参考2)に基づきロジックモデルの点検を行った。

現状分析・課題

- ・エビデンス(統計等データや研究成果)を示しながら記入できているか

ロジックの確認①【インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒アウトカム⇒インパクトの論理展開の妥当性】

- ・ロジックモデルの各要素項目が適切に記入されているか
- ・要素項目間の流れに論理的整合性があるか
- ・本来の政策目的と整合的なアウトカムを記入できているか

ロジックの確認②【課題解決の手段としての当該事業(アクティビティ)の妥当性】

- ・既存のエビデンスの確認・参照ができているか
- ・参照しているエビデンスは妥当か

効果検証方法

- ・事業内容に照らして、明らかに不可能な効果検証方法が記入されていないか

II. ロジックモデルの点検結果について

各項目の点検結果① 現状分析・課題・事業概要

- エビデンス(データ・ファクトを含む)を用いた「現状分析」や「課題」の記載内容が、初回提出時に「問題なし」と判定できたものは3～4割程度であった。事務局の点検を通じて、「問題なし」と判定できる記載内容は7割前後になった。(No. 2, 3, 6, 7)
- 初回提出時に「課題」が記入要領どおりに記載されていたのは3割半ばに留まり、事務局の点検を通じて約7割が「問題なし」と判定できる記載内容となった。(No. 4)
- 「事業概要」は初回提出時から8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容であった。(No. 9)

No.	必須/ 推奨	点検対象箇所	チェック項目/コメント	提出時点	「問題なし」の割合	
1	必須	現状分析	「現状分析」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	62.5%	
				8月1日時点	84.4%	
2	必須	現状分析	エビデンス(データ・ファクトを含む。)を記入したうえで、定量的な説明(高い・低い・上昇・低下など)を記入する必要がある。	初回	34.4%	
				8月1日時点	68.8%	
3	必須	現状分析	記入されているエビデンス(データ・ファクトを含む。)が「現状分析」の根拠として成立している必要がある。	初回	46.9%	
				8月1日時点	71.9%	
4	必須	課題	「課題」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	37.5%	
				8月1日時点	68.8%	
5	必須	課題	「課題」の記入内容が「長期アウトカム」に対応していない。	初回	71.9%	
				8月1日時点	87.5%	
6	必須	課題	エビデンス(データ・ファクトを含む。)を記入したうえで、定量的な説明(高い・低い・上昇・低下など)を記入する必要がある。	初回	34.4%	
				8月1日時点	71.9%	
7	必須	課題	記入されているエビデンス(データ・ファクトを含む。)が「課題」の根拠として成立している必要がある。	初回	37.5%	
				8月1日時点	71.9%	
8	必須	事業概要	事業概要上部のチェック欄(「新規 既存 モデル 大幅見直し」)にチェックがなされていない。	初回	81.3%	
				8月1日時点	84.4%	
9	必須	事業概要	「事業概要」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	84.4%	
				8月1日時点	90.6%	

各項目の点検結果② インプット～アウトプット

- 初回提出時に「アウトプット」が記入要領どおりに記載されていたのは約4割であった。(No. 13)
- 事務局の点検を経て、多くの項目で「問題なし」と判定できる記載内容が8割前後に改善した。
- 事務局の点検によって、「アウトプット」の目標値の設定理由が記入要領どおりに記載されていたのは約7割となった。(No. 15)

No.	必須/ 推奨	点検対象箇所	チェック項目/コメント	提出時点	「問題なし」の割合	
10	必須	インプット	「インプット」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	71.9%	
				8月1日時点	84.4%	
11	必須	アクティビティ	「アクティビティ」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	65.6%	
				8月1日時点	78.1%	
12	推奨	アクティビティ	「アクティビティ」をより具体的に記入することが望ましい。	初回	65.6%	
				8月1日時点	81.3%	
13	必須	アウトプット	「アウトプット」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	40.6%	
				8月1日時点	75.0%	
14	必須	アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「アウトプット」「短期アウトカム」「長期アウトカム」の測定指標を算出する調査名・行政記録情報等を記入する必要がある。	初回	75.0%	
				8月1日時点	84.4%	
15	推奨	アウトプット & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「アウトプット」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	65.6%	
				8月1日時点	71.9%	
16	推奨	アウトプット & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「アウトプット」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	78.1%	
				8月1日時点	78.1%	

各項目の点検結果③ 短期アウトカム～インパクト

- 初回提出時に「短期アウトカム」が記入要領どおりに記載されていたのは1割強であり、全項目のなかで最も「問題なし」と判定できる記載が少なかった。(No. 17)
- 「長期アウトカム」についても、初回提出時に記入要領どおりに記載されていたものは2割程度であった。(No. 20)
- 事務局の点検によって、「短期アウトカム」と「長期アウトカム」が記入要領どおりに記載されたのは6割程度になった。(No. 17, 20)

No.	必須/ 推奨	点検対象箇所	チェック項目/コメント	提出時点	「問題なし」の割合	
17	必須	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「短期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	12.5%	<div></div>
				8月1日時点	59.4%	<div></div>
18	推奨	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	46.9%	<div></div>
				8月1日時点	62.5%	<div></div>
19	推奨	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「短期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	65.6%	<div></div>
				8月1日時点	71.9%	<div></div>
20	必須	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	21.9%	<div></div>
				8月1日時点	59.4%	<div></div>
21	推奨	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	56.3%	<div></div>
				8月1日時点	71.9%	<div></div>
22	推奨	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	62.5%	<div></div>
				8月1日時点	75.0%	<div></div>
23	必須	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	87.5%	<div></div>
				8月1日時点	100.0%	<div></div>

各項目の点検結果④ ロジックの確認①②/効果検証方法

- アウトカムに関連した論理的整合性について、初回提出時に「問題なし」と判定できるものは4割程度であった。(No. 25, 26)
- 効果検証方法の「比較対象」の設定が、初回提出時に「問題なし」と判定できるものは4割程度であった。(No. 33)
- 事務局の点検を経て、ロジックの確認①②の項目については「問題なし」が7割以上となった。(No. 24-30)
- 事務局の点検を経て、効果検証方法の「比較対象」、「アウトカム」、「分析手法」の項目では「問題なし」が6割台となった。(No. 33-35)

No.	必須/ 推奨	点検対象箇所	チェック項目/コメント	提出時点	「問題なし」の割合	
24	必須	ロジックの確認 (論理展開の妥当性)	「ロジックの確認」のチェック(確認)が行われていない。	初回	81.3%	
				8月1日時点	93.8%	
25	必須	ロジックの確認 (論理展開の妥当性)	「短期アウトカム」と「長期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない。	初回	43.8%	
				8月1日時点	71.9%	
26	必須	ロジックの確認 (論理展開の妥当性)	「アウトプット」と「短期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない。	初回	46.9%	
				8月1日時点	75.0%	
27	必須	ロジックの確認 (論理展開の妥当性)	「長期アウトカム」から遡って考えたときに、「アクティビティ」がアウトカムの改善に寄与するものとなっていない。	初回	75.0%	
				8月1日時点	87.5%	
28	必須	ロジックの確認 (課題解決の手段としての当該事業の妥当性)	「ロジックの確認」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	43.8%	
				8月1日時点	75.0%	
29	推奨	ロジックの確認 (課題解決の手段としての当該事業の妥当性)	因果関係を特定することを目的として統計的な分析を行っているエビデンスが存在するかを確認することが望ましい。	初回	59.4%	
				8月1日時点	84.4%	
30	推奨	ロジックの確認 (課題解決の手段としての当該事業の妥当性)	他の想定される事業との比較を考えるうえで、「ロジックの確認」のエビデンスが妥当かどうかを再考することが望ましい。	初回	62.5%	
				8月1日時点	87.5%	
31	必須	効果検証方法	「事業の対象」が適切に記入されていない。	初回	62.5%	
				8月1日時点	84.4%	
32	必須	効果検証方法	「事業内容」が適切に記入されていない。	初回	65.6%	
				8月1日時点	84.4%	
33	必須	効果検証方法	「比較対象」が適切に設定されていない。	初回	40.6%	
				8月1日時点	68.8%	
34	必須	効果検証方法	「アウトカム」が適切に設定されていない。	初回	50.0%	
				8月1日時点	62.5%	
35	推奨	効果検証方法	効果検証の分析手法等を具体的に記入することが望ましい。効果検証が困難な場合は代替手段や阻害要因を解決するための手段を記入することが望ましい。	初回	43.8%	
				8月1日時点	62.5%	